

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 5 月 20 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/20 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 1.9 m ³ /h	23.6	105.5 kPa abs	A系： 0.07 vol%
		給水系：約 2.3 m ³ /h			B系： 0.06 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 3.4m ³ /h	36.6	7.00 kPa g	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.04 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 3.5 m ³ /h	34.9	0.25 kPa g	A系： 0.12 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.11 vol%

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/20 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	20.5
2号機	循環冷却システム	運転中	20.8
3号機	循環冷却システム	運転中	18.5
4号機	循環冷却システム	運転中	28

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

[6号機]・H25/5/20 使用済燃料プール内に設置されている使用済燃料ラックの点検を開始。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋地下	5/18 10:10～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	5/15 17:20～ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/20 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/3/30 9:56～ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A～C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。

< 5 . その他 >

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H25/1/8～ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。
- ・H25/5/18 14:08 頃 3号機原子炉建屋上部において、ガレキ撤去作業に使用していた無人重機の制御に使用している油が漏えいしていることを当社社員がリモート操作室にて確認。無人重機を停止したことにより油の漏えいは停止。同日 14:33 頃、富岡消防署に連絡。その後監視カメラで確認したところ、漏えい範囲は約5m×約4m、漏えい量は約 20 リットルと推定。また、無人重機の油圧カッターの先端の制御用ホースが外れ漏えいしたと推定。無人重機は3号機原子炉建屋上部周辺に設置している構台の上であり、油も構台上に広がっているため、使用済燃料プールとは十分離れており影響はないと判断。
5/20、無人重機の点検を行い、油圧カッター先端の制御用油圧ホースが外れたことにより制御用油が漏えいしたことを確認。また、無人重機の制御用油圧ホース取り付けを行うと共に、他に異常がないことを確認。併せて、漏えいした油の拭き取りを実施。
- ・H25/5/18 14:48 頃 福島県沖を震源とする M5.9 の地震が発生。その後、各プラントの点検を行った結果、5・6号機RO装置処理水タンクのオーバーフロー配管から水が滴下していることを当社社員が発見。当該タンクの処理水については、5/17 に当該タンクで発生した漏えいの際に実施した核種分析の結果から検出限界未満であることを確認している。なお、漏えい範囲は、約2m×約2mであり、漏えい量は、約4リットルと推定。また、5/18 19:36 に、オーバーフロー配管からの滴下が止まっていることから、滴下の原因は処理水タンクを5/17 から滴水状態で保管していたため、5/18 14:48 頃に発生した地震により、処理水がオーバーフロー配管より滴下したものと推定。そのため、当該タンクの処理水を他の処理水タンクへ5/19 11:16 から 12:04 にかけて移送し、当該タンクの水位をタンク上面より約1m下まで下げる処置を実施。
なお、1～6号機設備の現場パトロールについては、5/18 17:02 に完了しており、その他の異常がないことを確認。
- ・H25/5/21 今年3月に新設した窒素ガス分離装置(C)の運用開始予定。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

< 地下貯水槽に貯水している水移送実績 >

- 5/18 11:03 地下貯水槽 No.3 から G6 タンクへの移送を開始。
- 5/21 地下貯水槽 No.6 から G6 タンクへの移送を開始予定。なお、地下貯水槽 No.3 および No6 から G6 タンクへの移送については、共通の移送ラインを使用することから、交互に切り替えて移送を実施する予定。

< 拡散防止対策 >

- 5/17～5/20 地下貯水槽 No.1、2の漏えい検知孔内に漏えいした水および地下貯水槽No.2のドレン孔に漏えいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。また、地下貯水槽 No.3の漏えい検知孔内に漏えいした水を当該貯水槽へ戻す処置を実施。

< サンプリング実績 >

- 5/17～5/19 地下貯水槽 No.1～7のドレン孔水(14 箇所)、地下貯水槽 No.1～4、6の漏えい検知孔水(10 箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22 箇所)についてサンプリングを実施。それぞれの分析結果につき、前回実施したサンプリングの分析結果と比較して大きな変動はない。

以上